

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22510285

研究課題名(和文) 視覚資料の活用による、初期グローバル化時代中国の思想文化史のジェンダー化研究

研究課題名(英文) A Research to Reconsider Intellectual and Cultural History of Early Globalization Age in China Applying Gender Approach and Visual Materials

研究代表者

坂元 ひろ子 (SAKAMOTO, Hiroko)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：30205778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、20世紀初頭、辛亥革命前の画報から1930年代に全盛を迎えた中国近代漫画雑誌を抗日戦争期、1940年代まで通観し、その図像をジェンダー視角により分析することによって、文献史料からはみえない近代思想文化史の流れを明らかにした。抗日戦争がはらむ問題も、前の研究から引き続き稀少な女性漫画家、梁白波が漫画作品を通して提示した社会や戦争で変貌した男性漫画家への抵抗の追跡から浮かび上がらせた。

研究成果の概要(英文)：Magazines of Modern Chinese Manhua or cartoon developed from graphic magazines of early 20th century and had their heyday in 1930s. Analyzing these visual magazines published up to 1940s, this research has focused on reconstruction of modern Chinese intellectual and cultural history from gender perspective and the representation of works especially made by Liang Baibo who resisted against the situation and male artists as the only female Manhua artist then in China to highlight issues regarding the anti-Japanese war.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：中国漫画 ジェンダー 中国近現代思想史 中国近現代文化史 抗日戦争 清末画報 モダンガール
辛亥革命

1. 研究開始当初の背景

2007年～2009年度の研究課題「近代中国における漫画の形成と漫画表象のジェンダー観点からの研究」(科研費基盤(C))では、中華民国、五四新文化運動期に植民地性の濃厚な租界をもつ上海で『上海パック』後に葉浅予ら若い前衛的漫画集団によって異文化連鎖的、複数文化的に作られた本格的漫画雑誌、『上海漫画』『時代漫画』、とりわけそのモダンガール表象に注目した。表象主体としての当時の漫画家として極めて稀少な女性、梁白波の作品の意義をも見出しつつ、漫画資料を収集し、思想文化的に位置づけるべく、概ね日中戦争期前までは分析を行っていた。そこで、時間的なスパンを前後にひろげるとともに、視覚資料の史料性をより強化するためにも、文献的に研究のジェンダー化の方向を模索していた。

2. 研究の目的

20世紀より前、ほとんどの女性は中国で長らく主流であった文字文化から排除され、纏足のせいもあって公共領域への進出が遅れたことから、なおさら歴史研究は男性単性史に傾きがちであった。このような問題意識から、アジア規模また世界規模での思想文化の連鎖的な様相をみせる近現代ではとりわけ豊富となる漫画・写真・映画などの視覚資料、ことに漫画雑誌を活用して分析することで、思想文化史のジェンダー化をはかるうとするものである。

これまでの1920年代後半から日中戦争までの研究をもとに、さらにさかのぼって清末、辛亥革命前の諸画報類へ、また下っては、漫画家群としては重なる日中戦争期の『抗戦漫画』『救亡漫画』、さらに日本軍の完全占領前の上海租界地での『上海生活』等まで時代のスパンを広げて分析を行うことで思想文化史のジェンダー化をよりはかるうとするものである。

漫画を中心に、画報の図像や写真などにも丹念にあたり、より広く視覚資料を用いることで、これまでのアジア近現代の連鎖性とジェンダーの問題に関する断片的な成果の総合を進めることを目指すものといってよい。総合によってこそより深い考察が可能になると考える。

3. 研究の方法

(1)上海・北京・スタンフォード等に赴き、1930年代後半から漫画等の表象において向けられたモダンガールへの冷たい視線についての研究を深めるため、主に扱ってきた『時代漫画』等より社会諷刺性の強い左派系の漫画文芸雑誌『漫画生活』などの漫画雑誌を収集してジェンダー視角から分析した。

(2)時代的に清末20世紀初にまでさかのぼって、当時の『図画日報』等、憲政模索の流れで登場していた画報類を分析し、辛亥革命醸成期の社会における思想文化の様態をジェ

ンダー視角からも分析した。

(3)時代的に下って抗日戦争期の『救亡漫画』『抗戦漫画』からさらに1940年までは刊行された『上海生活』等の資料収集とジェンダー視角からの分析を行った。そのなかでの梁白波の創作についても作品収集・分析を行った。

(4)梁白波については1949年以降、台湾に行ってからの方がほとんど知られてこなかったため、台湾でできるだけ補足調査を行った。

(5)思想文化史のジェンダー化をはかるためには文献学的なアプローチも看過できないので、『新編原典中国近代思想史』の編集委員を引き受け、思想史にジェンダー関係の原典資料を組み入れる作業を行った。

4. 研究成果

これまでの清末の思想史研究に当時の画報の分析を加えることで、20世紀初頭、辛亥革命前後に、心身ともに革命の練習が多岐にわたってなされていたことを浮き彫りにしえた。革命の時代、政治の季節のプレッシャーに持ちこたえ、耐えるための精神装置となっていたとみなしうるのが、多くは1905年の科挙廃止期から日本留学を経験し、近代的な個の自覚とともに流行した「神経病」なり「神経衰弱」である。一方、纏足という肉体上の問題と向き合うほかなかった当時の女性たちについては纏足を解くことにおいて、立憲政治の教化過程にあり、当時になってやっと盛んとなった画報というメディアにおいて、結婚という制度ともども「進化」の展望の図の主体として託された。同時に「進化」のいきつく文明の「大同」時代には、女性が男性に同一化する、兵士にさえなることが予感され、男女それぞれの側からの恐怖が喚起されていたことも見て取れた。

この清末時期の画報では従前からの風俗画の主役、ファッション・リーダーとしての妓女がやはり多く描かれたが、彼女らも新たに社交や知的進化のシンボルの役目をも帯びようになり、また科挙廃止で顕在化した新しい女学生、そして産業振興策において社会化という面で突出し始めた女工も描かれる。無名の女工たちは多くは集団で描かれ、同じく集団行動を描かれた女学生の場合が社会化の訓練の対象として描かれたのとは対照的に、明らかに主体性をもって集団行動をとる女たちとして描かれている。こうした状況をおさえることによって、五四新文化運動以降の新女性の登場、さらには女工がその下支えをしたともいえる両世界大戦間期のモダンガールの登場の展望が可能となる。

これまでの研究(拙論「漫画表象に見る上海モダンガール」上記本所収)でも、戦間期の中国の前衛的なモダンボーイ画家たちがその当事者としての欲望を反映させつつ、儒教的身体性の束縛から解放され、躍動するモダンガールを美しく描きだしたが、同時に優

位にたつジェンダー規範の侵犯への潜在的な恐れもあり、1930年代後半になると戦時色とともにエロ・グロ色情文化の影響が加わり、むしろ抑圧された裸体のモダンガールもしくは場違いに贅沢をするような、「奇形的に進化した」妓女、あるいは男に頼る弱いモダンガールを描くようになったことや、それに対してほとんど唯一女性の漫画家、梁白波がモード規制やハラスメントにしなやかに抵抗するモダンガール像を創出したことは示してきた。そこからさらに、抗日戦争期の漫画雑誌において、男性漫画家たちが画風を変え、モダンガール描写を否定して、たいてい逃げまどう難民か国産品宣伝の婦人でなければ敵の日本兵に陵辱された中国女性をむごたらしくその性器露出をも厭わず描くが、そのなかでも梁白波は女性として冷静に闘う女を描くことで抗ったことを明らかにした。戦時性暴力への日中双方に対する抗議をそこにみることもできる。図像資料をも使用することで、こうした戦時性暴力の問題もが視野に入る。一方、中国の男性漫画家も日本女性に対しては夫を戦争にとられて亡くし、寡婦として苦勞すると同情的なまなざしを向け、それを「反戦の声」に開こうとしていた点もみてとれ、大政翼賛の戦争画家へと雪崩をうって転向した日本の画家たちとも対照をみせたことを指摘しえた。梁白波の伝記的な研究成果としては、台湾に渡って精神の失調に向かった数少ない作品群について追跡することができた。

両世界大戦間期のモダンガールについては、一橋大学で開催した『モダンガールと植民地的近代 東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー』（伊藤るり、坂元ひろ子、タニ・パーロウ 編岩波書店、2010）刊行記念の国際シンポジウムにおいて、植民地主義と東アジアでの思想文化の連鎖の問題としての総括的な位置づけとその発信をしえた。抗日戦争期の女性の表象については、戦闘地域を除き、日常生活を送っていた多くの女性の表象にも目配りする必要がある。『上海生活』などの分析からは、戦時の経済的な逼迫から都市女性の就職はより不利となり、そのため家では窮乏庶民の生活を送っても、外ではモダンでしゃれた見栄えに苦心する必要があった様子などが活写され、抗日戦争鼓舞を目的とする漫画と異なり、犠牲者か戦士あるいは「銃後の守り」に回収されない女性たちの様相をとらえ、戦争という非日常と日常との乖離を埋める漫画も描かれていたことを明らかにした。抗日戦勝利後の漫画家集団の活動や内戦を経て成立した中華人民共和国の思想文化の行方を漫画や宣伝画を通して分析することが今後の課題となる。

思想文化史のジェンダー化をはかるといふ大きな目的のためには、ジェンダーにかかわる論点や問題を指摘する当時の著述や女性自身の声を発掘し、紹介していくことが必要になる。その点では『新編原典中国近代思

想史』（全7巻、岩波書店）の編集委員となり、全巻の総説に新たにジェンダー基軸を立て、各巻にジェンダー関係の文献が配置されるよう具体的に提案をしたことが「新編」たるゆえんと周知させた。さらに第4巻（世界大戦と国民形成 五四新文化運動）では責任編集を務めて全巻で唯一、巻頭の解説に図版を使用してジェンダー問題の重要性を示した。また、中国社会文化学会 2013 年度年次大会シンポジウムには「中国のジェンダー構造の歴史の変容」を企画、唐宋以降の前近代までスパンを広げ、さらに近現代では女性／男性性の社会・文化的構築、セクシュアリティの問題にまで深める議論空間を創成した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

1, 坂元ひろ子(弘子), 近代中国漫画及其伝播与世界文化 広告/漫画、全球/民族主義、社会性別(中国語) 近代思想史研究(北京:社会科学文献出版社) 査読無、通巻10号、2013、pp.200 - 219

〔学会発表〕(計18件)

1, 坂元ひろ子, 抗日戦争期の中国漫画におけるジェンダー表象、シンポジウム「ビジュアル・メディアとジェンダー」2013年12月15日、東洋文庫、東京都

2, 坂元ひろ子(弘子), 試論章太炎の道家・仏教思想及其对身体・性と医学的看法、学術研討会「中国伝統文化反思与展望」2013年12月6日、北京大学、中国

3, 坂元ひろ子(弘子), 再論嚴復《天演論》翻訳の創造性 有関選赫赫胥黎原文文本的問題(中国語) 「嚴復:中国与世界」国際会議2013年10月13日、北京大学、中国

4, 坂元ひろ子, Chinese and Japanese Women Represented in Cartoon Magazines during the Anti-Japanese War Period、International Conference “The Cultural Location of Women in Korea (and Japan/China), 1600-1945, in the Context of East Asian Society”、2013年8月15日、The University of British Columbia, Canada

5, 坂元ひろ子(弘子), 『中国近現代思想文化史』(岩波新書)的新思考(中国語) 中国社会科学院近代史研究所報告会、2012年8月21日、中国社会科学院近代史研究所(北京) 中国

6, 坂元ひろ子, On the Concept of the Han, the Yellow Race and the New Chinese Nation in Modern Chinese History: From Liang Qichao's Concept of 'Yellow as Greater Han' to Fei Xiaotong's argument on the 'Plurality and Organic Unity' of the Chinese Nation”, International Seminar: History, Identity & Collective Memory: In Search of Modern China, 2012年6月30日、International Institute for Asian Studies,

Leiden, the Netherlands

7, 坂元ひろ子(弘子)、漫画裡的摩登女郎与抗戰(中国語)、中央研究院第4回漢学会議、2012年6月20日、中央研究院近代史研究所(台北)、台湾

8, 坂元ひろ子(弘子)、清末民国思想史研究与歷史想像力(中国語)、中国近代知識建構与知識伝播研究群學術講演会、2011年12月26日、中央研究院近代史研究所(台北)、台湾

9, 坂元ひろ子、辛亥革命とジェンダー: 革命に耐える/進化を見せる装置(試論)、辛亥革命100周年記念国際シンポジウム(神戸会議)、2011年12月10日、神戸大学(招待講演)、兵庫県

10, 坂元ひろ子(弘子)、辛亥革命与社会性別(中国語)、四川辛亥革命及尹昌衡国際學術シンポジウム、2011年10月17日、レインバード インターナショナル ホテル(成都)、中国

11, 坂元ひろ子(弘子)、歴史的“人種・民族/国民・市民(公民)”概念、兩次“世紀之交”: 現代中国の思想文化轉型国際學術研討会、2011年5月22日、華東師範大学(上海)、中国

12, 坂元ひろ子、辛亥革命におけるジェンダーと表象、孫文研究会秋季例会(辛亥革命研究会)、2010年11月20日、中華会館(神戸)、兵庫県

13, 坂元ひろ子、上海モダンガールの行方 抗日戦争と女性漫画家、梁白波、神戸大学講演会、2010年11月19日、神戸大学)、兵庫県

14, 坂元ひろ子(弘子)、以漫画資料探査中国現代社会文化史 三十年代的『時代漫画』、『抗戰漫画』与女漫画家梁白波、北京師範大学歴史系講演会、2010年11月3日、北京師範大学(北京)、中国

15, 坂元ひろ子、漫画表象に見る上海モダンガール、国際シンポジウム『モダンガールと植民地的近代 東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー』(伊藤るり、坂元ひろ子、タニ・パーロウ編、岩波書店)刊行記念、(企画、報告、司会)、2010年7月17日、一橋大学、東京都

〔図書〕(計8件)

1, 坂元ひろ子「辛亥革命とジェンダー: 革命に耐える/進化を見せる装置(試論)」、日本孫文研究会編「グローバルヒストリーの中の辛亥革命」(図書所収論文)、汲古書院、392(35-57)、2013

2, 坂元ひろ子(弘子)「五四時期的女性主義及其思想淵源」、中国社会科学院近代史研究所編「紀念五四運動90周年国際學術研討会論文集(上)」(図書所収論文)、社会科学文献出版社(北京)、865(381-397)、2012

3, 坂元ひろ子、他編、岩波書店、新編原典中国近代思想史 第7巻(砂山幸雄責任編集)、2011、432

4, 坂元ひろ子、他編、岩波書店、新編原典中国近代思想史 第6巻(野村浩一・近藤邦康・砂山幸雄責任編集)、2011、432

5, 坂元ひろ子、他編、岩波書店、新編原典中国近代思想史 第5巻(野村浩一・近藤邦康・村田雄二郎責任編集)、2010、412

6, 坂元ひろ子、他編、岩波書店、新編原典中国近代思想史 第4巻(坂元ひろ子責任編集)、2010、406

7, 坂元ひろ子、他編、岩波書店、新編原典中国近代思想史 第3巻(村田雄二郎責任編集)、2010、382

8, 坂元ひろ子、他編、岩波書店、『新編原典中国近代思想史 第2巻(村田雄二郎責任編集)、2010、327

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂元ひろ子 (SAKAMOTO, Hiroko)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号: 30205778